

経営比較分析表（令和5年度決算）

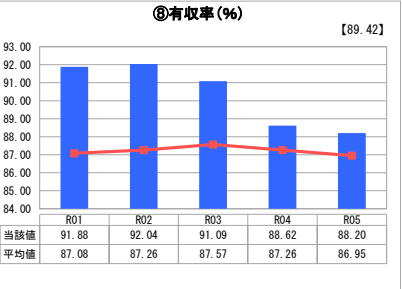
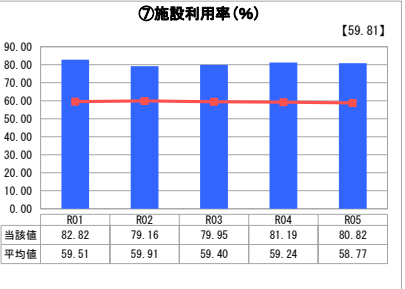
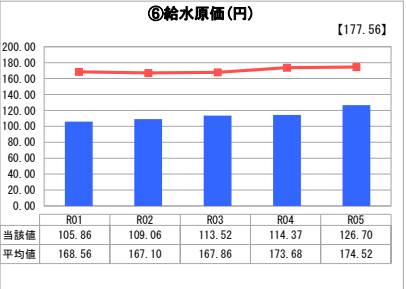
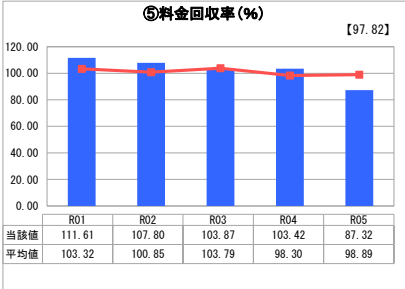
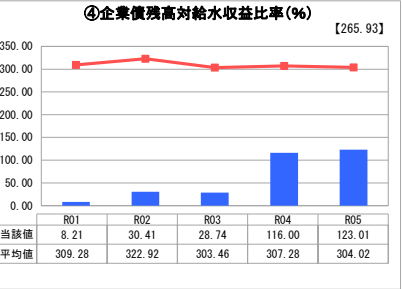
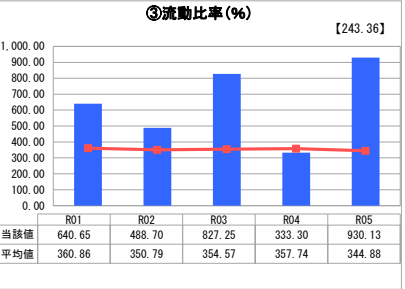
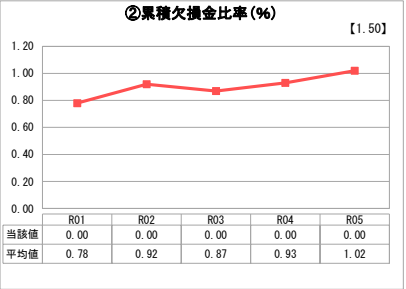
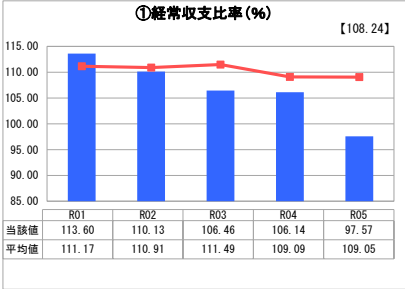
岡山県 玉野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	83.45	99.68	2,178	

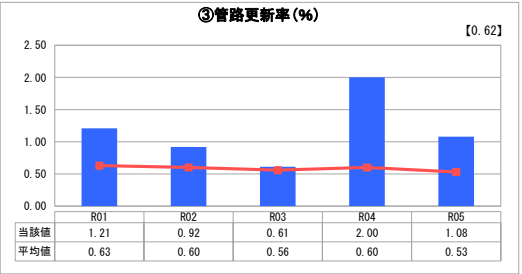
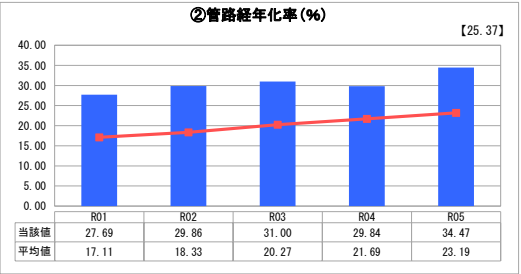
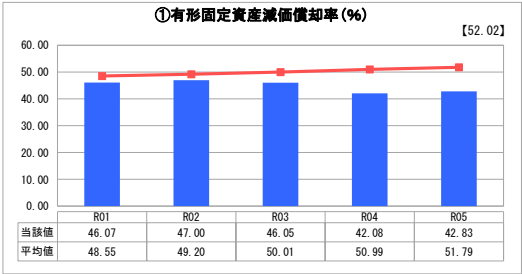
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
54,946	103.58	530.47
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
54,452	103.43	526.46

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益で費用をどれほど賄えているかを示す指標。令和5年4月からの水道用水供給単価の改定に伴う受水費の増加等により、令和5年度において初の赤字決算となった。

②累積欠損は生じていない。

③100%を超え短期的な債務に対する支払能力は備えている。

④配水池の新規築造や大規模な管路更新に伴い、企業債務高が増加している。

⑤受水費等費用増加に伴う給水原価の上昇により、料金回収率は100%を下回り、さらに水道料金減免を実施したことによる供給単価の減少の影響で、類団平均値を大きく下回る結果となった。

⑥有収水量1m3あたりに係る費用。大規模な浄水場を保有していないため、費用が抑えられていると判断される。

⑦一日配水能力に対する一日平均配水量。施設の効率性のみならず、渇水時や水需要の多寡に対応可能な配水能力を維持する必要がある。

⑧総配水量に対する総有収水量を示し、類似団体平均値よりも高い有収率を維持しているが、管路の老朽化が進んでいるため、より一層、漏水調査や修繕を行い、さらなる向上に努める。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産に対する減価償却累計額の割合を示す。減価償却費の増加額に同程度で施設更新を実施している。

②管路の老朽化が進んでいる。実質耐用年数、財源、修繕状況、人口動向などを総合的に勘案し、老朽化の改善を図る。

③繰越工事の影響により、年度ごとに事業量の増減があるが、類団平均は上回る管路更新を行えている。

全体総括

令和5年度の経営は、収益的収支において、給水収益の減少、受水費及び減価償却費等の増加により、赤字決算となったが、欠損金はなく十分耐え得るだけの現金等もあるため、経営についても問題なく行える。

今後も将来的な給水人口の減少による有収水量の減や、老朽化した施設の更新事業による経営健全性の悪化が懸念され、引き続き厳しい状況が予想される。

施設のダウンサイジングや事業費の平準化等を行い、計画的に企業債を活用をしながら、より一層の経費削減に努めていく必要がある。